日光産蜘蛛類

關口晃一

日光の眞正蜘蛛目及び蓄蟲目については，東照宮編纂の“日光の動物と植物”中に岸田久吉氏が46種を記録して居られるが 今回筆者の植物採集旅行中折を見て採集したものの中には同報告に見られないものも多數あるので，歩いた道順を追つて日誌的に記すことにする。

第一日目 (1939. 7. 17) **日光驛——中禪寺**

電車の都合で帝大附屬植物園まで歩くことになつた。東照宮參道入口を過ぎて大谷川に沿つたほこりつぽい道を歩いてゐる間に，道端に水平の網を張つてゐた腹部の銀色な美しい蜘蛛をとつた。“シロカネグモ”これが筆者の出鱈目に當てた種名であるが今になつて見れば當つてゐた。もつともコシロカネグモであつたかどうかは分らないが，兎に角これが日光に採集した最初の蜘蛛である。

帝大附屬植物園へ入ると俄然カラスグモ，シロカネグモの多いのに氣がついた。園内到る處に小さな垂直の圓網を張つてその中央に黑いゴミの樣にくつついてゐるカラスグモは東京附近で餘り目につかない丈に非常に面白く思はれた。馬返附近，中禪寺附近の笹の中にはザトウムシの多いのが注意を惹いた。馬返より少し上の，茶屋の手前の岩の上で大きな垂直圓網の輻絲の一端を摑んで「よき餌物かな」と網全體を睥睨してゐた大きなコケオニグモらしいものを捕へた。この蜘蛛は筆者の丈よりも少し高い濕氣のある岩の上に，苔の生えた小石の樣にジーツと蹲つてゐたので，その形と網を見て半信半疑で手を出した筆者も，掌の中で狽てて脚を突張るまでは一寸何だか見當がつかなかつた。この標本は不注意の爲，中禪寺までの間で紛失してしまつたが，觀察した事項と

植村利夫氏のお話及び同氏の標本と一致するので茲に確實なものとして記錄することにした。

この日の採集品：——（以下＊印は"日光の動物と植物"中に記錄されないものを示す）

No.	学名	和名
1.	*Theridion tepidariorum* C. L. Koch	オホヒメグモ
2.*	*Enoplognatha* sp.	ヒメグモ一種
3.*	*Oedothorax* sp.	アカムネグム一種
4.	*Linyphia* sp.	サラグモ一種
5.*	*Argiope brünnichii* (Scopoli)	ナガコガネグモ
6.*	*Meta doenitzi* Bösenberg et Strand	ドヨウグモ
7.	*Meta yunohamensis* Bösenberg et Strand	ユノハマドヨウグモ
8.*	*Cyclosa insulana* Costa	ヨツデゴミグモ
9.	*Cyclosa atrata* Bösenberg et Strand	カラスグモ
10.*	*Bellinda nipponica* Kishida	ベリンダホサフラフグモ
11.	*Tetragnatha squamata* Karsch	ウロコアシナガグモ
12.*	*Tetragnatha japonica* Bösenberg et Strand	ヤサガタアシナガグモ
13.*	*Leucauge subblanda* Bösenberg et Strand	コシロカネクモ
14.	*Araneus ventricosus* (L. Koch)	オニグモ
15.*	*Araneus ishisawai* Kishida	イシザハオニグモ
16.*	*Araneus mongolicus* Simon	コケオニグモ
17.*	*Araneus displicata* (Hentz)	ムツボシオニグモ
18.*	*Araneus semi-nigra* (L. Koch)	フタスヂオニグモ
19.*	*Pisaura lama* Bösenberg et Strand	アヅマキシダグモ
20.*	*Lycosa procurva* Bösenberg et Strand	チビドクグモ
21.	*Agelena* sp.	クサグモ一種
22.	*Tegenaria* sp.	タナグモ一種
23.	*Hahnia* sp.	ハタケグモ一種

24.* *Xysticus ephippiatus* Simon　ヤミイロカニグモ

25.* *Philodromus aureolus japonicola* Bösenberg et Strand　アサヒエビグモ

26.* *Yoshiiyea agoana* Kishida　ヨシイヘハヘトリ

27.* *Evarcha albaria* (L. Koch)　マミジロハヘトリ

28.* *Clubiona japonicola* Bösenberg et Strand　ハマキフクログモ

第二日目　(1939. 7. 18)　**中禪寺――湯元**

中禪寺湖の南側を暫く歩いてから船で菖蒲ケ濱へ出たが路上到る處にザトウムシの多いのには驚いた。戰場ケ原ではシヤコグモが目についた。今葉の表にゐたかと思へば忽ち裏へ，裏かと思へば又表へ，漸く管瓶を向けると他の枝へとお互に虚々實々の秘術を盡し合つて二・三頭採るまでには汗だくになつた。この他，ドクグモ，ハヘトリグモ等澤山ゐたが非常に急ぐ旅で落着いて採集出來なかつたのは殘念であつた。

湯の瀧附近に行くと風にゆれてゐる笹の間のサラグモの網が注意を惹いた。一つの網に♀と♂が入つてゐたので「シメタッ」と思ひ乍ら一生懸命追ひまはしたが結局兩方共逃げられ，オマケに口を開けて持つてゐた管瓶まで落して，折角の採集品を大分流出,「二兎を追ふものは數兎を失ふ」の新格言を作成して遙かに先へ行つた友を追つた。

高島春雄氏より伺つてゐたトンボが蜘蛛の網にかゝつてゐる處を日光に來て何回か目撃したが，今夕は湯元の町でアカネらしいトンボがオニグモの網(？)にかゝつて盛に暴れてゐるのを見た。網が別に古いとも思れないのに何處にも網の主が見えないのも面白いと思つた。

この日の採集品：――

29.* *Oedothorax* sp.　ツノアカムネグモ（稀）

30.* *Araneus scylla* (Karsch)　ヤマシロオニグモ

31.* *Tetragnatha praedonia* L. Koch　アシナガグモ

32.* *Oxyptila* sp.　カニグモ一種

33. *Tibellus tenellus* (L. Koch) シヤコグモ

34. *Micrommata rosea* Clerck ツユグモ

35. *Akanuma sibo* Kishida アカヌマシボグモ（?）(稀)

この他前日のものと重複する採集品は、フタスヂオニグモ，コシロカネグモヤサガタアシナガグモ，オニグモ，ドヨウグモ，ユノハマドヨウグモ，タナグモ，*Araneus* sp., *Lycosa* sp. 等である。

第三日目 (1939. 7. 19) **湯元――前白根――湯元**

登山と植物の方の採集の爲，殆んど收獲なし。山頂では殆んど蜘蛛が見當らず只二三のドクグモを採集したのみであつたがこれも植村氏の御同定に依れば幼くて *Lycosa* sp. としか分らぬさうである。この他の種類は總て山麓で採集したものである。猶同夜は湯元の町の家屋附近及び雜草中を捕蟲網を持つて探しまはつたが，結局オニグモ，アシナガグモ，ヤサガタアシナガグモの三種の非常に多いことを知つたのみで別に新しい收獲はなかつた。

この日の採集品：――

36.* *Tetragnatha lea* Bösenberg et Strand アヅマアシナガグモ

37.* *Araneus mitificus* (Simon) ビデヨオニグモ

38.* *Araneus saganus* (Bösenberg et Strand) サガオニグモ

39.* *Bansaia nipponica* Uyemura カチドキグモ

40.* *Jotus difficilis* Bösenberg et Strand マガネアサヒハヘトリ

41.* *Uloborus* sp. ウヅグモ一種

この他前日のものと重複する採集品は，アシナガグモ，オニグモ，ユノハマドヨウグモ，シヤコグモ，オホヒメグモ，*Araneus* sp. 等であつた。

第四日目 (1939. 7. 20) **湯元――金精峠――菅沼――湯元**

途中までは昨日と同じコースで別に變つた收獲なし，サラグモが目につく位のもの。金精峠でも植物の採集に追はれてドクグモを二三とつた位で菅沼へ。

今までの細い山路が急に濶けて，黄，白，紫等の美しい高山植物の間に立つ

と暫し我を忘れて大自然の静けさに耳を傾けたが，忽ち盛に活躍してゐる友に氣附いて再びクモ，植物と二人前の採集を始めた。人里離れた高層濕原の蜘蛛相は矢張り俗界の蜘蛛相とは大分違ふと見えて非常に興味あるものが多かつた。特に嬉しかつたのは背面が黄赤色で四ケの白の斑點を有するアカオニグモ——この當時は未だ種名も分らなかつたが，美しい花の間に張つた丸網の中央に，或ひは網の端の草の葉で作つた袋の中に，多數發見出來た時は非常に嬉しかつた——ヨシイヘハヘトリに似て青味がかつたハヘトリグモ（*Icius* sp.）等であつた。この他休憩中にコメツガの大木の下でウヅグモや二三のザトウムシの收獲があつた。

この日の採集品：——

42.*	*Uloborus sybotides* Bösenberg et Strand	カタハリヒカゲグモ
43.*	*Uloborus tokyoensis* Kishida	トウキヤウウヅグモ
44.	*Leucauge blanda* L. Koch	シロガネグモ
45.	*Araneus quadratus* Clerck	アカオニグモ
46.*	*Araneus* sp.	オニグモ一種（稀）
47.	*Icius* sp.	ハヘトリグモ一種

この他重複した種類はオニグモ，アヅマアシナガグモ，タナグモ一種，オホヒメグモ，ヤミイロカニグモ，ビヂヨオニグモ，サラグモ一種，サガオニグモ等であつた。

猶この日になつてシロガネグモが出て來たのはいさゝか變に思はれるかも知れないが，これはコシロガネグモと區別がつかなかつた爲同種として放置してあつたのを植村氏からの御注意で見直して頂いた爲である。恐らくシロガネグモのゐる處にはコシロガネグモも見られ，コシロガネグモのゐる處にはシロガネグモもゐるのではないかと思ふ。筆者の知る範圍ではさうなつてゐるやうである。

今回の採集に現はれた結果は14科29屬47種で，その中新記録となるものは20

屬31種である。(41* *Uloborus* sp. は新記錄種として取扱はず)。これを岸田氏の34屬46種に加へると日光産の蜘蛛は15科44屬77種となるわけである。筆を擱くに當り多數の標本を御査定下さつた植村利夫氏及び色々の便宜を取計らつて下さつた高島春雄氏に厚く御禮申上ける。　(11月24日　稿)

追記　日光に於ける蜘蛛類の文獻には上記"日光の動物と植物"があるが，この他大正四年十月發行の博物學會誌（現在の博物學雜誌の前身）に福井玉夫博士が"日光で採集した蜘蛛"と題して發表して居られる。種名の決定してゐるのは二種（*Cyclosa atrata* Bös. et St.; *Tetragnatha praedonia* L. Koch）だけであるが，これは先生が蜘蛛男と自稱して蜘蛛研究に熱中された高師時代の御成績として興味あるものだと思ふ。

上記期間中矢張り折を見て蜘蛛の採集をされた學友辻忠二郎君より最近その成績6科12屬15種（内新記錄5種）の提供を受けたので，茲に追錄する。同君には深甚なる謝意を表し，併せて平生よりの御激勵御鞭撻に對しても，此の際厚く御禮申上げる。(＊印は新記錄種)

1. *Theridion* sp.　ヒメグモ一種
2.* *Narihira delicata* Kishida　ナリヒラグモ
3. *Argiope brünnichii* (Scopoli)　ナガコガネグモ
4. *Araneus* sp.　オニグモ一種
5. *Araneus scylloides* Bösenberg et Strand　サツマノミダマシ
6. *Leucauge blanda* (L. Koch)　シロカネグモ
7.* *Chrysaster typia* Kishida　キララグモ
8. *Tetragnatha praedonia* L. Koch　アシナガグモ
9. *Cyclosa atrata* Bösenberg et Strand　カラスグモ
10.* *Cyclosa argenteoalba* Bösenberg et Strand　ギンメツキゴミグモ
11.* *Cyclosa sedeculata* Karsch　ヨツデゴミグモ
12. *Lycosa procurva* (Bösenberg et Strand)　チビドクグモ

13.* *Tegenaria* sp. タナグモ一種（珍品）
14. *Tibellus tenellus* (L. Koch) シヤコグモ
15. *Clubiona* sp. フクログモ一種（幼）

神奈川縣神武寺附近産蜘蛛

町田德治・松下傳吾

はしがき

昨年（1939）筆者等は神奈川縣神武寺附近に於て，3月（25日），4月（30日），5月（15日），（28日一松下），6月（4, 18日一町田）の6回に亘つて該地の採集調査を試みた結果，次の17科72種を得る事が出來た。目錄としてはこれだけでは勿論完全なものとは云はれないが，之に依つて當地の春及び初夏の蜘蛛相の概略を知り得たと思ふので玆に一先づ報告することゝする。本稿を草するに當り標本同定の勞を執られたる植村利夫氏並びに採集に御助力を頂いた高島春雄學士，荒木東次氏に對して深甚なる感謝の意を表す。

神武寺附近

當地は神奈川縣三浦半島に含まれる丘陵地の一部である。相模灣上に突出せる三浦半島は所謂湘南地方と稱せられる地域で，氣候溫暖，特に冬と春とに於てそれが著しく感ぜられ，動植物の分布から之を瞥するに部分的ながら伊豆地方のそれと相似てゐる點が窺はれて面白い。

目錄

1. キノシシグモ科 DYSDERIDAE

1. *Ariadna lateralis* (Karsch) ミヤグモ